BODWELL HIGH SCHOOL

カナダの私立中学・高校

【オンライン版】

世界で注目される人気の IB Middle Years Program (MYP) ってなに？

IB Middle Years Program（MYP）とは？

1968 年にスイスで設立された国際バカロレア機構による世界的な教育プログラムです。世界の複雑さを理解して対処できる生徒を育成し、未来へ責任ある行動をとるためのスキルを身につけます。ボドウェルでは、学習と社会とのつながりに焦点を当てた IB MYP を Grade 8 ～ 10 の生徒に提供しています。

Interviewee

Megumi さん

2005 年より、マーケティング、カウンセリング、入学課、サマープログラム等の職歴を重ね、現在はシニア・スクールカウンセラーとして、日本人およびモンゴル人の生徒担当カウンセラー兼、日本・韓国・モンゴルのマーケティングを担当。

Q ボドウェルの IB MYP プログラムの強みを教えてください。

少人数制で教師との距離が近いので、内容が濃いディスカッションができることや細かいサポートが出来る点です。ボドウェルでは、IB MYP プログラムを 8 年生～ 10 年生のみに提供しています。その後、11 年生～ 12 年生では、大学の単位が取得できるアドバンスト・プレースメント（AP）コースや Honour コースを充実させ、生徒の得意分野をさらに伸ばし、大学進学に有利な科目が受講できるよう、一人ひとりに合った履修計画をカウンセラーがいっしょに考えます。

Q ボドウェルの日本人生徒は IB MYP の勉強にどのように取り組んでいますか？

IB MYP 教育は、受動的ではなく能動的で積極的に学習に臨むスキルも必須です。受け身な教育に慣れてきた生徒にとっては、大きなシフトチェンジをする必要がありますが、ボドウェルでは放課後や寮の自習時間を使い、生徒に必要な補習やサポートを行っています。

IB MYP プログラム 1 週間の時間割の例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:15-9:30	科学	デザイン	言語習得（中国語）	言語 / 文学	作曲
9:35-10:50	作曲	科学	デザイン	言語習得（中国語）	言語 / 文学
10:55-12:10	言語 / 文学	作曲	科学	デザイン	言語習得（中国語）
12:55-14:10	言語習得（中国語）	言語 / 文学	作曲	科学	デザイン
14:15-15:30	デザイン	言語習得（中国語）	言語 / 文学	作曲	科学

卒業生の進学先大学

京都大学、名古屋大学、国際教養大学、東京外国語大学、名古屋外国語大学、横浜国立大学、慶応義塾大学、国際基督教大学、早稲田大学、上智大学、GMARCH、University of Toronto、University of British Columbia、Simon Fraser University、University of Victoria、University of Alberta、University of Ottawa、University of Oregon　他

Q ボドウェルを考えている方へのメッセージ

世界でも住みやすい都市として選ばれるバンクーバーは、多国籍を受け入れる環境があります。ボドウェルでも、異文化や習慣を受け入れることを積極的に奨励しています。国際化が進んでいく社会で、将来活躍するためには、英語力のみでなく、多文化を理解し、多様性に柔軟に対応できるスキルやコミュニケーション能力が必要です。ボドウェルは、これらのスキルを学び、世界中に友だちを作りたいという希望を持った留学生が集まる学校です。

子どもがボドウェルに留学している保護者の話

Interviewee

2022 年 9 月から次女がボドウェルに留学している

吉川 理恵子 さん

── ボドウェルにお子さんを入学させたいと思った決め手は何ですか？また、実際に入学してみての感想をお聞かせください。

決め手は娘のボドウェルに入学したいという強い意思です。留学には親として多くの選択肢や希望があります。しかし、その中で我が家が大切にしていたのは娘がその学校で、自らの大切な学生の時間を過ごしたいという希望でした。入学当時は 14 歳だったので幼さも残っていましたが、歳を追うごとに少しずつですが留学生らしい心の成長がみられ、ほんの小さな成長を親と同じく見守ってくださり、認めてくださるボドウェルの Megumi さんと先生方には心から感謝しています。

── お子さんがボドウェルに留学する前や留学してから、心配なことや困ったことはありませんか？また、それをどのように解決・克服されましたか？

心配していた事は 2 点あります。ひとつは医療関係です。日本にいる時と同様に、子どもは体調を崩し、時には気落ちし体調不良になることもあるので、親も子どもの状態を把握することが大切です。しかし、やはり日本とカナダでは距離があるので親が子どもに出来ることは限られます。我が家は事前に必要となる薬を日本から持たせたり、Megumi さんに子どもの現状を正直にお伝えすることで心のサポートもしていただきました。また、ボドウェルには看護師が在籍しているので薬も処方してもらえました。距離があるからこそ、子どもを支えて下さる方を「頼る・信じる」ことの大切さを改めて学びました。

ふたつ目は友人関係です。留学は世界を広げることもできますが、反対に狭くしてしまうこともあります。ボドウェルに限らず、同じ母国語同士の子と長く付き合ってしまうと、本来の留学の目的からズレてしまいます。我が家では留学する前に娘と「目的」について話し合い、在学中も家族で話し合いの時間を設け、子ども自身の行動で自分の世界を広げることができるようにサポートしつつ、家族で子どもの留学を成功させたいと考えています。そのためにも学校と親、双方の信頼関係をしっかりと保つことがとても大切だと思います。

── ボドウェルの授業で、印象に残っているものはありますか？

我が家は長女もボドウェルを卒業しています。そのため、次女が初めての授業で自分と家族の自己紹介のパワーポイントを作ったとき、先生方が長女のことを次女が説明するよりも長く語って説明していたと聞いたのが深く印象に残っています。すでに卒業したにも関わらず、未だに学校の一員として長女を温かく見守っていてくださることをとてもうれしく思いました。

── ボドウェルのサポートサービスで、特に助けられていることを教えてください。

カウンセラーの方が日本人であることです。これは、留学生にとっても、子どもを預ける親子さんにも、とても心強いことだと思います。特に、留学当初は語学力もなく自分が困っていることを説明するのも難しいので、Megumi さんに頼ることが多いです。学年が進むと、英語の環境にもなれ、入学当初のように頼ることは少なくなりますが「お守り」のような心の支えです。大学進学の相談や学業、日常の些細なことまで理解してくださり、親も日本語で細かく相談できるので保護者としても安心しています。

── お子さんをカナダの高校に進学させて、どんなところが成長したと感じますか？

留学はつらいことが多いです。忍耐力、適応力、生活力、すべてが留学生には必要なスキルです。そして実際に留学を通して今の自分に何が足りないのか、現実に直面することで子どもは自分を理解します。何度も挫折を経験し、悔しい思いをしますが、それを乗り越えたと自分で感じたとき、子ども自身が「成長した」と実感します。そして、親はその子どもの姿を目にし、子どもの成長を感じることができます。我が家の娘たちはカナダの前にアメリカとイギリスに留学していましたが、「カナダが 1 番！」と言っています。その理由はきっと違うと思いますが、娘たちのその言葉を聞くたびに、カナダに留学させてよかったと親として思っています。